



元国土交通省熊本河川
国道事務所長



森田 康夫

熊本在任中は、熊本地震発生後の半年間を除いて週末ごとに県内各地を巡り、先人たちが郷土に残した遺構やその恩恵（インフラのストック効果）を調べて回りました。それらを自身のブログ「熊本国土学」に書きつづけていましたが、中でも加藤清正公にまつわる話題やテーマがいかに多かったことが。

勇猛な戦国武将として

全国に名をはせている清正公。ここ熊本では、熊本城の築城、主要河川の治水・利水工事、有明海の干拓、豊後街道をはじめとする道づくりなど「土木の神様」として有名です。さらには産業の奨励保護や学問・文化の開拓に至るまで、今日の

熊本の礎をつくった大恩人としてたたえられ「せいしょよさん」の愛称で呼ばれています。清正公の口ぐせは「後の世のため」であったと伝えられています。没後400年以上を経た「後の世」である現在も、県内のさまざまな場所でも清正公の遺産を目にする事ができました。また、熊本城内に鎮座する加藤神社をはじめ、県内には清正公をお祭りする神社がたくさんあって、多くの人々から崇拜されています。

就任直後、購入したてのママチャリで、清正公が夢のお告げによって造ったとされる甲佐町の鶴の瀬堰を訪れました。緑川の豊かな流れ、水の音に触れながら、肥後の国造りに思いをはずすにはいられませんでした。清正公が築造した熊本シンボル、熊本城も、清正公が眠る浄池廟のある本妙寺も、熊本地震で甚大な被害を受け、いまだ修復の途上にあります。早期の復旧を祈念してやみません。

清正公の功績と熊本国土学